

幼児教育・児童福祉現場への進路を希望する教育学部の学生をサポートします

こども教育総合センターニュース第2号を発行します。第1号では、教育学部に広く開かれたセンターを目指す書き込み。さて、その部分でどうだったかという、ポチポチというところでしょうか。就職ガイダンスを増やし、保育所・幼稚園以外の児童福祉分野の就職に特化したガイダンスも複数回行いました。確かに、参加者は少なかったのですが、個別の相談につながるなど、いわゆる福祉就職を目指すコアな学生の支援の場になりました。今年度は、実施時期、実施の仕方はもとより広報手段を工夫し、学部学生の進路について、多様な選択を可能にするセンター機能を強化したいと考えています。

こども教育コース学生を中心とした保育実習・就職支援については、センターという場所を活かした丁寧なサポートができたと思います。多様な学生が増えるなか、一人ひとりに目を配り、個に応じたサポートが必要になってきました。その意味で、個別に対応するセンターは、学生理解の上で貴重な場となっています。学生のサポートと指導においては、自立を目指すことを目的としています。まずは、個を理解することが基本になります。個別に対応し、個に応じた支援ができるのもセンターの特徴であり利点です。このような対応が在学中だけでなく、卒業後も「ふらっと立ち寄れるセンター」の形を作ってきたのだと思います。これからも、学生が「育つ」「可能性を広げる」をコンセプトに安心して相談でき、自立をサポートする場所としての役割を果たしていきたいと思っています。



こども教育総合センター長 芦澤清音

就職支援 ～公務員対策の強化&様々な保育・福祉職への就職に対応したガイダンスの実施～

今年度は、年間10回の就職ガイダンスを実施しました。全学部・学年を対象とした「保育士資格の取得方法」、「児童指導員とは」などのガイダンスは、ガイダンス日以外にも個別に対応することで、より「誰でも」「いつでも」こども教育総合センターを利用できるようにしました。また、公務員試験（保育・福祉系）対策では、今年度公務員試験に合格した4年生の体験談を聞く機会を作るなど、学生のニーズをもとにして新たな取り組みを加えました。

内容

- 1 保育士とは
- 2 取得の方法
- 3 保育士試験について
- 4 働くことのできる場所

求人票の見方

職種	児童福祉施設(2名)	児童福祉施設(2名)	児童福祉施設(2名)
勤務地	東京都	東京都	東京都
給与	20万円	20万円	20万円
応募資格	保育士資格	保育士資格	保育士資格
応募方法	書類送付	書類送付	書類送付
備考	面接あり	面接あり	面接あり

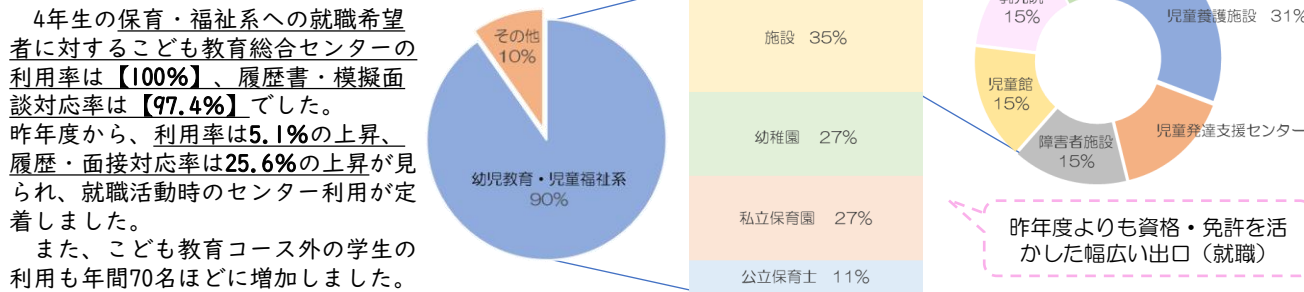
4年生の合格体験談を真剣に聞いている姿が見られました

先輩とのフリートークでは、和やかな雰囲気のもと、試験勉強を開始した時期や勉強方法、受験する自治体の選び方など多くの質問が出ました。

☆就職希望者の就職率100% ☆資格・免許取得者の幼児教育・児童福祉系就職率90%

2023年度卒業生の就職希望者の就職率で100%を達成しました。また、資格・免許を取得し就職を希望する学生の内、90%以上が幼稚園や保育所、施設などの幼児教育・児童福祉系に就職しました。就職先の内訳をみると、保育所・幼稚園の他に、児童発達支援センター、乳児院、児童養護施設、障害者施設など35%ほどが施設保育士として就職しており、就職先に資格や免許を活かした幅広い選択肢があることがこども教育コースの特徴です。

就職活動時のセンター利用率100%達成



人形劇団「プーク」による 人形劇「ハリネズミと金貨」の鑑賞

2023年12月14日(木) こども教育コースの3年生と帝京幼稚園の年長さんが人形劇団プークの『ハリネズミと金貨』を鑑賞しました。主人公のハリネズミと動物たちの様々な触れ合いが繰り広げられる中、子どもたちは笑ったり、真似をしてお話してみたり、たくさんのリアクションを見せてくれました。一緒に観ていた学生は観劇を楽しみながら、子どもたちの姿と、幼稚園の先生方の言葉かけや子どもに寄り添う姿を見て保育者を目指す人としての気づきが得られたと思います。

観劇後には、学生に質問の時間を設けてくださいました。学生たちが演じるうえでのコツや、衣装について、舞台セットについてなど気になったことを質問すると劇団員の方が丁寧に答ええてくださいました。

実際に人形を動かす機会もいただき、生き生きとした動きや表情を演じることの難しさ、声色や目線まで表現することの奥深さを身をもって感じていたようです。教員も一緒になって人形を動かし、学生と共に人形劇の裏側も目いっぱい楽しみました。

(担当：石川素子)



ドキュメンタリー映画 「ゆめパのじかん」

11月2日(木)に「ゆめパのじかん」の上映会をキュリオシティホールで行い、計107名の学生・教員が鑑賞しました。「ゆめパのじかん」は2022年に公開された川崎市にある「子ども夢パーク」という子どもたちの遊び場を3年間取材した映画です。子どもの居場所となる遊び場であり、年齢関係ない場が舞台であることで教育学部の学生が視聴する意義のある作品であると考え、上映することとしました。上映後のアンケートでは「子どもにとって『居場所』がどれだけ大切かを改めて感じた」「安心できる居場所とどこも追求できる環境があれば輝ける子どもたちがたくさんいる」など子どもの居場所、子どもたちの姿に対するコメントが多く、子どもが過ごす環境について考える刺激を与えられたと思います。また、4年生からは「学校に行くことが苦しい子どもたちにとって、教師になりたい立場の自分はどんなことができるだろう」「小学校教員になる私も、このような施設の方針や子どもとの関わり方から学びやアイデアを得て自分の学級にも取り入れていきたい」などの感想も見られ、教員としての意識を持ちながら視聴していたことを嬉しく思います。是非この映画から考えさせられたことと頭の片隅に置きながら教員として輝いてくれること願っています。「特別支援教育に関する作品がみたい」「このような他の作品も観てみたい」など学生からのリクエストも見られたため、2024年度の上映も前向きに検討できれば、と思っています。(担当：目戸郁衣)



センター主任より こども教育総合センターについて今年度の総括

こども教育総合センターは、学生一人一人に合わせたきめ細やかな対応を心がけています。「自分がどんな保育者となりたのか」「どのような人生を歩んでいきたいのか」を大切に指導に当たり、夢の実現を学生と一緒に目指す場所となっています。。と偉そうに書きましたが『先生！話聞いて！』と、学生のお話を聞きながら頭の片隅で考えた文章です(笑)。良い意味でいい加減(良い加減)な空気が流れているのがセンターです。目的が無くてもふらっと立ち寄れる場所ですので、気軽にセンターを利用してください。

こども教育総合センター主任 小泉篤

23年度卒業生の来室率50%
2人に1人が遊びに来ています。

オープンキャンパスでも上映

学科紹介Movie

こども教育総合センターHP

帝京大学HP内に新設

こども教育総合センター大学HP

Webでも情報発信中

特集①: 第12回卒業生と在校生の集い ~草野いづみ先生 最終講義~

2024年2月17日(土)に本学卒業生のリカレント教育の一環として「第12回 卒業生と在校生の集い」を開催しました。在校生にとっても、保育者として様々な職場で活躍している先輩との情報交換を通し保育、教育、福祉現場の現状を学ぶ場、さらに就職情報を得る場となっています。

当日は、卒業生、在校生、退職教員など計26名が今年度でご退職される草野先生の最終講義と交流会に参加しました。草野先生は、これまでの帝京大学での教員生活を振り返り、「わりと他の人が知らないところを知っている」と保育畑の階段から見える富士山やソラティオスクエアの梅林を紹介して下さるところから始まり、保育内容の指導法(環境)の授業で長年携わった保育畑での野菜の栽培、ソラティオスクエア建築前の遺跡発掘の様子、東日本大震災時の猫の手プロジェクトへの参加など数々の興味深い活動をお話しくださり、在生も卒業生も教員も、草野先生のお話に聞き入る姿が印象的でした。

最後に草野先生の方から、今後の課題として以下のようなご助言をいただきました。

☆保育者が自分も成長し、楽しみながら不安なく働いていけるように。労働条件はもちろん、人として保育者として力をつけていけるように、制度の改善や意識改革が必要 ②調査から、保育者は自分の保育についての向上心が高いことがわかった。

☆子どもが育っていく先がどんな世界であってほしいかのビジョンを持ち、行動する。
☆園や学校での性教育(包括的性教育、国際セクシュアリティガイダンスに基づくような)は重要。
保育者養成や現場の保育者の研修等においてもきちんと位置づけて実施する必要がある。

ご講演の後は、卒業生、在校生、教員が自由に交流し、近況報告をし合ったり、それぞれの仕事や活動内容を紹介し合ったりと、終了時間後まで話が尽きない様子が見られるほど。草野先生、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました!これから新たな生活でもご活躍をお祈りしております。

特集②: こども教育総合センターと学生 ~4年生へのインタビュー~



天谷優里さん、丸山栞さん
加藤麻恵さん、諸山美優さん



中務京香さん、中務歩香さん



齋藤竜也さん、山口岳さん
竹ヶ原航太さん、渡邊虎汰郎さん

Q1: センターをどのように利用しましたか?

履修や実習、就職関係で分からないことを先生方に質問したり、不安なことなどを相談しに行ったりしていました。その他にも模擬保育の準備などで用具を借りに行ったり、必要なものを置かせていただいたりなど色々な面でお世話になりました。

Q2: センターの良かったところは?

先生方が常に笑顔で優しく迎えてくださるので、質問や相談がなくても「9階で授業があるから」「大学に来たからついでに」など気軽に立ち寄れるアットホームな雰囲気が良かったと思います。それから、悩みが吹き飛ばくらいあっさりはっきり意見を言って下さるところが個人的に好きでした(笑)また、何かあればまずはセンターに聞こうと思える信頼感があり、安心して大学生活を送ることが出来ました。

Q3: もっとやって欲しかったことは?

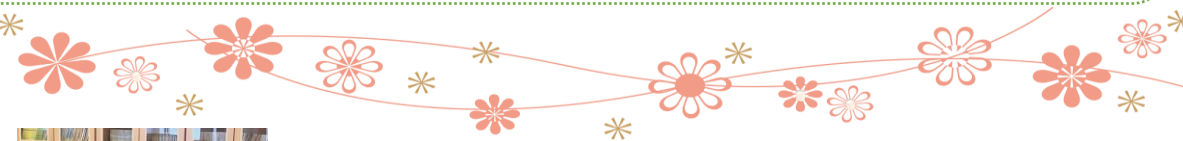
十分過ぎるほど支えていただいたので、もっとこうしてほしいなどは、特にありません。

Q4: センターを一言で表すなら?

- ◎「第2の家(親)」。いつ行っても誰かがいてくれて、話を聞いてくれる安心感と信頼があるので、4年間の大学生活の中でそれくらい私にとって大きな存在でした。
- ◎こども教育コースの「ホーム」です!実習や就活で悩んだ時、辛い時に親身に話を聞いてくれて相談してくれる先生方がいて心強くも安心出来る場所です。困った時はひとりで悩まず「とりあえずセンター」の気持ちで利用しました!アットホームな雰囲気がセンターのいい所だと思います。
- ◎「気軽に利用できるたまり場」です!

Q5: そのほか

大学1年生、2年生の頃は、「センターって何に使うの?」「先輩たち多いし、ちょっと行きにくいかも...」と思っていましたが、実際はそんなことなく、どんなに些細なことでも親身に聞いて一緒に悩んで考えてくださったり、アドバイスをくださったりしていつの間になくならない存在になっていました。センターの先生含め、こども教育コースの先生方のおかげで充実した大学生活を送り、無事に就職が決まり、4年間の大学生活を終えることができます。

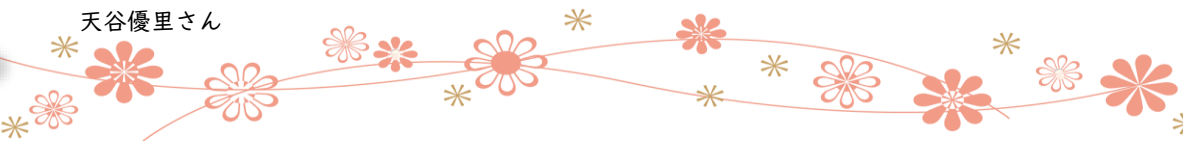


天谷優里さん

4年生の夏休み前から就職に向けてセンターを利用することが多くなりました。私は自分の進みたい道が決まっていたので、どの園を見学するか、どの園を受けるかという相談を主にしていました。

一週間後に就職試験をすることが突然決まった時は、その期間で履歴書の添削や面接練習をしていただきました。面接練習の後にはフィードバックもしていただき、安心して試験当日を迎えることができました。

こども教育総合センターはアットホームな雰囲気で先生方も優しいので、気軽に相談しに行くことができると思います。就職に対して不安を抱いていた私にとっては、親身になって相談にのってくれる、背中を押してくれる存在があったことはとても大きかったです。



番外編: 大学の猫さんたち



保育畑: 全景



保育士コース(こども教育コース)ができたときに、授業のために畑と砂場を作っていました。畑は4回移動して現在の場所に落ち着きました。砂場はなくなりました。

帝京大学で楽しかったこと、記憶に残っていること

草野いづみ

2024. 2. 17.
卒業生と在校生の会